



Multi-VRF CE の設定

- [Multi-VRF CE に関する情報 \(1 ページ\)](#)
- [Multi-VRF CE の設定方法 \(5 ページ\)](#)
- [Multi-VRF CE のモニタリング \(19 ページ\)](#)
- [Multi-VRF CE の設定例 \(19 ページ\)](#)
- [Multi-VRF CE の機能履歴 \(23 ページ\)](#)

Multi-VRF CE に関する情報

バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) は、ISP バックボーン ネットワーク 上でお客様にセキュアな帯域幅共有を提供します。VPN は、共通ルーティング テーブルを共有するサイトの集合です。カスタマーサイトは、1つまたは複数のインターフェイスでサービスプロバイダ ネットワークに接続され、サービス プロバイダは、VRF テーブルと呼ばれる VPN ルーティング テーブルと各インターフェイスを関連付けます。

スイッチが稼働している場合、スイッチはカスタマーエッジ (CE) デバイスの Multiple VPN Routing/Forwarding (Multi-VRF) インスタンスをサポートします (Multi-VRF CE)。サービス プロバイダは、Multi-VRF CE により、重複する IP アドレスで複数の VPN をサポートできます。



(注) スイッチでは、VPN のサポートのためにマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) が使用されません。

Multi-VRF CE の概要

Multi-VRF CE は、サービス プロバイダが複数の VPN をサポートし、VPN 間で IP アドレスを重複して使用できるようにする機能です。Multi-VRF CE は入力インターフェイスを使用して、さまざまな VPN のルートを区別し、1つまたは複数のレイヤ 3 インターフェイスと各 VRF を関連付けて仮想パケット転送テーブルを形成します。VRF 内のインターフェイスは、イーサネットポートのように物理的なもの、または VLAN SVI のように論理的なものにもできますが、複数の VRF に属することはできません。



(注) Multi-VRF CE インターフェイスは、レイヤ 3 インターフェイスである必要があります。

Multi-VRF CE には、次のデバイスが含まれます。

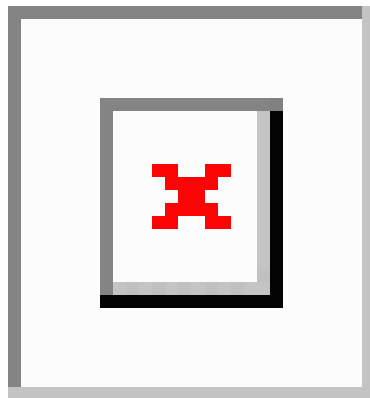
- お客様は、CE デバイスにより、1 つまたは複数のプロバイダ エッジ (PE) ルータへのデータリンクを介してサービスプロバイダ ネットワークにアクセスできます。CE デバイスは、サイトのローカルルートをルータにアドバタイズし、リモート VPN ルートをそこから学習します。スイッチを CE に設定することができます。
- CE デバイ스에 接続していないサービスプロバイダ ネットワークのルータは、プロバイダ ルータやコア ルータになります。

Multi-VRF CE では、複数のお客様が 1 つの CE を共有でき、CE と PE の間で 1 つの物理リンクだけが使用されます。共有 CE は、お客様ごとに別々の VRF テーブルを維持し、独自のルーティングテーブルに基づいて、お客様ごとにパケットをスイッチングまたはルーティングします。Multi-VRF CE は、制限付きの PE 機能を CE デバイスに拡張して、別々の VRF テーブルを維持し、VPN のプライバシーおよびセキュリティをブランチ オフィスに拡張します。

ネットワーク トポロジ

次の図に、スイッチを複数の仮想 CE として使用した構成例を示します。このシナリオは、中小企業など、VPN サービスの帯域幅要件の低いお客様に適しています。この場合、スイッチにはマルチ VRF CE のサポートが必要です。Multi-VRF CE はレイヤ 3 機能なので、VRF のそれぞれのインターフェイスはレイヤ 3 インターフェイスである必要があります。

図 1: 複数の仮想 CE として機能するスイッチ



CE スイッチは、レイヤ 3 インターフェイスを VRF に追加するコマンドを受信すると、Multi-VRF CE 関連のデータ構造で VLAN ID と Policy Label (PL) の間に適切なマッピングを設定し、VLAN ID と PL を VLAN データベースに追加します。

Multi-VRF CE を設定すると、レイヤ 3 フォワーディング テーブルは、次の 2 つのセクションに概念的に分割されます。

- Multi-VRF CE ルーティング セクションには、さまざまな VPN からのルートが含まれます。
- グローバル ルーティング セクションには、インターネットなど、VPN 以外のネットワークへのルートが含まれます。

さまざまな VRF の VLAN ID はさまざまな PL にマッピングされ、処理中に VRF を区別するために使用されます。レイヤ 3 設定機能では、学習した新しい VPN ルートごとに、入力ポートの VLAN ID を使用して PL を取得し、Multi-VRF CE ルーティング セクションに PL および新しいルートを挿入します。ルーテッドポートからパケットを受信した場合は、ポート内部 VLANID 番号が使用されます。SVI からパケットを受信した場合は、VLAN 番号が使用されます。

パケット転送処理

Multi-VRF CE 対応ネットワークのパケット転送処理は次のとおりです。

- スイッチは、VPN からパケットを受信すると、入力 PL 番号に基づいてルーティングテーブルを検索します。ルートが見つかり、スイッチはパケットを PE に転送します。
- 入力 PE は、CE からパケットを受信すると、VRF 検索を実行します。ルートが見つかり、ルータは対応する MPLS ラベルをパケットに追加し、MPLS ネットワークに送信します。
- 出力 PE は、ネットワークからパケットを受信すると、ラベルを除去してそのラベルを使用し、正しい VPN ルーティング テーブルを識別します。次に、通常のルート検索を実行します。ルートが見つかり、パケットを正しい隣接デバイスに転送します。
- CE は、出力 PE からパケットを受信すると、入力 PL を使用して正しい VPN ルーティング テーブルを検索します。ルートが見つかり、パケットを VPN 内で転送します。

ネットワーク コンポーネント

VRF を設定するには、VRF テーブルを作成し、VRF に関連するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。次に、VPN、および CE と PE 間でルーティング プロトコルを設定します。

Multi-VRF CE ネットワークには、次の 3 つの主要コンポーネントがあります。

- VPN ルート ターゲット コミュニティ：VPN コミュニティのその他すべてのメンバーのリスト。VPN コミュニティ メンバーごとに VPN ルート ターゲットを設定する必要があります。
- VPN 転送：VPN サービスプロバイダネットワークを介し、全 VPN コミュニティメンバー間で、全トラフィックを伝送します。

VRF 認識サービス

IP サービスはグローバル インターフェイスに設定可能で、グローバル ルーティング インスタンスで稼働します。IP サービスは複数のルーティング インスタンス上で稼働するように拡張

されます。これが、VRF 認識です。システム内の任意の設定済み VRF であればいずれも、VRF 認識サービス用に指定できます。

VRF 認識サービスは、プラットフォームに依存しないモジュールに実装されます。VRF とは、Cisco IOS 内の複数のルーティング インスタンスを意味します。各プラットフォームには、サポートする VRF 数に関して独自の制限があります。

VRF 認識サービスには、次の特性があります。

- ユーザーは、ユーザー指定の VRF 内のホストに ping を実行できます。
- ARP エントリは、個別の VRF で学習されます。ユーザーは、特定の VRF の ARP エントリを表示できます。

Multi-VRF CE の設定時の注意事項

- Multi-VRF CE を含むスイッチは複数のお客様によって共有され、各お客様には独自のルーティング テーブルがあります。
- お客様は別々の VRF テーブルを使用するので、同じ IP アドレスを再利用できます。別々の VPN では IP アドレスの重複が許可されます。
- Multi-VRF CE では、複数のお客様が、PE と CE の間で同じ物理リンクを共有できます。複数の VLAN を持つトランク ポートでは、パケットがお客様間で分離されます。それぞれのお客様には独自の VLAN があります。
- Multi-VRF CE ではサポートされない MPLS-VRF 機能があります。ラベル交換、LDP 隣接関係、ラベル付きパケットはサポートされません。
- PE ルータの場合、Multi-VRF CE の使用と複数の CE の使用に違いはありません。図 41-6 では、複数の仮想レイヤ 3 インターフェイスが Multi-VRF CE デバイスに接続されています。
- スイッチでは、物理ポートか VLAN SVI、またはその両方の組み合わせを使用して、VRF を設定できます。SVI は、アクセス ポートまたはトランク ポートで接続できます。
- お客様は、別のお客様と重複しないかぎり、複数の VLAN を使用できます。お客様の VLAN は、スイッチに保存されている適切なルーティング テーブルの識別に使用される特定のルーティング テーブル ID にマッピングされます。
- Multi-VRF CE は、パケットのスイッチング レートに影響しません。
- VPN マルチキャストはサポートされません。
- プライベート VLAN で VRF をイネーブルにできます（逆も同様です）。
- インターフェイスでポリシーベースルーティング（PBR）がイネーブルになっている場合は、VRF をイネーブルにできません（逆も同様です）。
- インターフェイスで Web Cache Communication Protocol（WCCP）がイネーブルになっている場合は、VRF をイネーブルにできません（逆も同様です）。

Multi-VRF CE の設定方法

ここでは、Multi-VRF CE の設定について説明します。

Multi-VRF CE のデフォルト設定

表 1: VRF のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
VRF	ディセーブル。VRF は定義されていません。
マップ	インポートマップ、エクスポートマップ、ルートマップは定義されていません。
VRF 最大ルート数	ファストイーサネットスイッチ：8000 ギガビットイーサネットスイッチ：12000
転送テーブル	インターフェイスのデフォルトは、グローバルルーティングテーブルです。

VRF の設定

次の操作を行ってください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device>enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device#configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ip routing 例： Device(config)#ip routing	IP ルーティングを有効にします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	ip vrf vrf-name 例 : Device(config)# ip vrf vpn1	VRF 名を指定し、VRF コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	rd route-distinguisher 例 : Device(config-vrf)# rd 100:2	ルート識別子を指定して VRF テーブルを作成します。AS 番号と任意の番号 (xxx:y) または IP アドレスと任意の番号 (A.B.C.D:y) を入力します。
ステップ 6	route-target {export import both} route-target-ext-community 例 : Device(config-vrf)# route-target both 100:2	指定された VRF のインポート、エクスポート、またはインポートおよびエクスポートルートターゲットコミュニティのリストを作成します。AS システム番号と任意の番号 (xxx:y) または IP アドレスと任意の番号 (A.B.C.D:y) を入力します。 <i>route-target-ext-community</i> は、ステップ 4 で入力した <i>route-distinguisher</i> と同一にする必要があります。
ステップ 7	import map route-map 例 : Device(config-vrf)# import map importmap1	(任意) VRF にルート マップを対応付けます。
ステップ 8	interface interface-id 例 : Device(config-vrf)# interface gigabitethernet 1/0/1	VRF に関連付けるレイヤ 3 インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。インターフェイスにはルーテッドポートまたは SVI を設定できます。
ステップ 9	ip vrf forwarding vrf-name 例 : Device(config-if)# ip vrf forwarding vpn1	VRF をレイヤ 3 インターフェイスに対応付けます。 (注) ip vrf forwarding が管理インターフェイスで有効になっている場合、アクセスポイントは加入しません。
ステップ 10	end 例 : Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	show ip vrf [brief detail interfaces] [vrf-name] 例 : Device# show ip vrf interfaces vpn1	設定を確認します。設定した VRF に関する情報を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	copy running-config startup-config 例 : Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

マルチキャスト VRF の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ip routing 例 : Device (config) # ip routing	IP ルーティング モードをイネーブルにします
ステップ 4	ip vrf vrf-name 例 : Device (config) # ip vrf vpn1	VRF 名を指定し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	rd route-distinguisher 例 : Device (config-vrf) # rd 100:2	ルート識別子を指定して VRF テーブルを作成します。AS 番号と任意の番号 (xxx:y) または IP アドレスと任意の番号 (A.B.C.D:y) を入力します。
ステップ 6	route-target {export import both} route-target-ext-community 例 : Device (config-vrf) # route-target import 100:2	指定された VRF のインポート、エクスポート、またはインポートおよびエクスポートルートターゲットコミュニティのリストを作成します。AS システム番号と任意の番号 (xxx:y) または IP アドレスと任意の番号 (A.B.C.D:y) を入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<i>route-target-ext-community</i> は、ステップ 4 で入力した <i>route-distinguisher</i> と同一にする必要があります。
ステップ 7	import map <i>route-map</i> 例： Device(config-vrf) # import map importmap1	(任意) VRF にルート マップを対応付けます。
ステップ 8	ip multicast-routing vrf <i>vrf-name</i> distributed 例： Device(config-vrf) # ip multicast-routing vrf vpn1 distributed	(任意) VRF テーブルでグローバル マルチキャスト ルーティングをイネーブルにします。
ステップ 9	interface <i>interface-id</i> 例： Device(config-vrf) # interface gigabitethernet 1/0/2	VRF に関連付けるレイヤ 3 インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。インターフェイスはルーテッド ポートまたは SVI に設定できます。
ステップ 10	ip vrf forwarding <i>vrf-name</i> 例： Device(config-if) # ip vrf forwarding vpn1	VRF をレイヤ 3 インターフェイスに対応付けます。
ステップ 11	ip address <i>ip-address</i> mask 例： Device(config-if) # ip address 10.1.5.1 255.255.255.0	レイヤ 3 インターフェイスの IP アドレスを設定します。
ステップ 12	ip pim sparse-dense mode 例： Device(config-if) # ip pim sparse-dense mode	VRF に関連付けられているレイヤ 3 インターフェイス上で、PIM をイネーブルにします。
ステップ 13	end 例： Device(config) # end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 14	show ip vrf [brief detail interfaces] [<i>vrf-name</i>] 例： Device# show ip vrf detail vpn1	設定を確認します。設定した VRF に関する情報を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 15	copy running-config startup-config 例 : Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

VPN ルーティング セッションの設定

VPN内のルーティングは、サポートされている任意のルーティングプロトコル（RIP、OSPF、EIGRP、）、またはスタティックルーティングで設定できます。ここで説明する設定は OSPF のものですが、その他のプロトコルでも手順は同じです。



- (注) VRF インスタンス内で EIGRP ルーティングプロセスが実行されるように設定するには、**autonomous-system autonomous-system-number** アドレス ファミリ コンフィギュレーション モード コマンドを入力して、自律システム番号を設定する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	router ospf process-id vrf vrf-name 例 : Device(config)# router ospf 1 vrf vpn1	OSPF ルーティングをイネーブルにして VPN 転送テーブルを指定し、ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	log-adjacency-changes 例 : Device(config-router)# log-adjacency-changes	(任意) 隣接ステートの変更を記録します。これは、デフォルトの状態です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	network network-number area area-id 例： Device(config-router)# network 1 area 2	OSPF が動作するネットワーク アドレスとマスク、およびそのネットワーク アドレスのエリア ID を定義します。
ステップ 6	end 例： Device(config-router)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	show ip ospf process-id 例： Device# show ip ospf 1	OSPF ネットワークの設定を確認します。
ステップ 8	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

VRF 認識サービスの設定

次のサービスは、VRF 認識です。

- ARP
- ping
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)
- ユニキャスト RPF (uRPF)
- Syslog
- traceroute
- FTP および TFTP

SNMP 用 VRF 認識サービスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例：	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	snmp-server trap authentication vrf 例 : Device (config) # snmp-server trap authentication vrf	VRF で、パケットに対して SNMP トラップをイネーブルにします。
ステップ 4	snmp-server engineID remote host vrf vpn-instance engine-id string 例 : Device (config) # snmp-server engineID remote 172.16.20.3 vrf vpn1 80000009030000B064EFE100	スイッチ上で、リモート SNMP エンジンの名前を設定します。
ステップ 5	snmp-server host host vrf vpn-instance traps community 例 : Device (config) # snmp-server host 172.16.20.3 vrf vpn1 traps comaccess	SNMP トラップ動作の受信側、および SNMP トラップの送信に使用される VRF テーブルを指定します。
ステップ 6	snmp-server host host vrf vpn-instance informs community 例 : Device (config) # snmp-server host 172.16.20.3 vrf vpn1 informs comaccess	SNMP 通知動作の受信先を指定し、SNMP 通知の送信に使用される VRF テーブルを指定します。
ステップ 7	snmp-server user user group remote host vrf vpn-instance security model 例 : Device (config) # snmp-server user abcd remote 172.16.20.3 vrf vpn1 priv v2c 3des secure3des	SNMP アクセス用に、VRF 上にあるリモートホストの SNMP グループにユーザーを追加します。
ステップ 8	end 例 : Device (config-if) # end	特権 EXEC モードに戻ります。

NTP 用 VRF 認識サービスの設定

NTP 用の VRF 認識サービスの設定には、NTP サーバーと、NTP サーバーに接続された NTP クライアント インターフェイスの設定が含まれます。

始める前に

NTP クライアントとサーバーの間の接続を確認します。NTP サーバーに接続されているクライアント インターフェイスで有効な IP アドレスおよびサブネットを設定します。

NTP クライアントでの NTP 用 VRF 認識サービスの設定

NTP サーバーに接続されているクライアント インターフェイスで次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface interface-id 例： Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1	VRF に関連付けるレイヤ 3 インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	vrf forwarding vrf-name 例： Device(config-if)# vrf forwarding A	VRF をレイヤ 3 インターフェイスに対応付けます。
ステップ 5	ip address ip-address subnet-mask 例： Device(config-if)# ip address 1.1.1.1 255.255.255.0	インターフェイスの IP アドレスを入力します。
ステップ 6	no shutdown 例： Device(config-if)# no shutdown	インターフェイスをイネーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	exit 例： Device (config-if) exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8	ntp authentication-key number md5 md5-number 例： Device (config) # ntp authentication-key 1 md5 cisco123	認証キーを定義します。デバイスが時刻源と同期するのは、時刻源がこれらの認証キーのいずれかを持ち、 ntp trusted-key number コマンドによってキー番号が指定されている場合だけです。 (注) 認証キー番号と MD5 パスワードは、クライアントとサーバーの両方で同じである必要があります。
ステップ 9	ntp authenticate 例： Device (config) # ntp authenticate	NTP 認証機能をイネーブルにします。NTP 認証はデフォルトでディセーブルになっています。
ステップ 10	ntp trusted-key key-number 例： Device (config) # ntp trusted-key 1	NTP クライアントで同期をとれるようにするために、NTP サーバーによってその NTP パケットで提供される必要がある 1 つ以上のキーを指定します。 trusted key の範囲は 1 ~ 65535 です。このコマンドにより、NTP クライアントが、信頼されていない NTP サーバーと誤って同期する、ということが防止されます。
ステップ 11	ntp server vrf vrf-name 例： Device (config) # ntp server vrf A 1.1.1.2 key 1	指定された VRF で NTP サーバーを設定します。

NTP サーバーでの NTP 用 VRF 認識サービスの設定

NTP サーバーで次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ntp authentication-key number md5 passowrd 例： Device (config) # ntp authentication-key 1 md5 cisco123	認証キーを定義します。デバイスが時刻源と同期するのは、時刻源がこれらの認証キーのいずれかを持ち、 ntp trusted-key number コマンドによってキー番号が指定されている場合だけです。 (注) 認証キー番号と MD5 パスワードは、クライアントとサーバーの両方で同じである必要があります。
ステップ 4	ntp authenticate 例： Device (config) # ntp authenticate	NTP 認証機能をイネーブルにします。NTP 認証はデフォルトでディセーブルになっています。
ステップ 5	ntp trusted-key key-number 例： Device (config) # ntp trusted-key 1	NTP クライアントで同期をとれるようにするために、NTP サーバーによってその NTP パケットで提供される必要がある 1 つ以上のキーを指定します。trusted key の範囲は 1 ~ 65535 です。このコマンドにより、NTP クライアントが、信頼されていない NTP サーバーと誤って同期する、ということが防止されます。
ステップ 6	interface interface-id 例： Device (config) # interface gigabitethernet 1/0/3	VRF に関連付けるレイヤ 3 インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	vrf forwarding vrf-name 例： Device (config-if) # vrf forwarding A	VRF をレイヤ 3 インターフェイスに対応付けます。
ステップ 8	ip address ip-address subnet-mask 例： Device (config-if) # ip address 1.1.1.2 255.255.255.0	インターフェイスの IP アドレスを入力します。
ステップ 9	exit 例： Device (config-if) exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

uRPF 用 VRF 認識サービスの設定

uRPF は、VRF に割り当てられたインターフェイス上で設定でき、送信元検索が VRF テーブルで実行されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface interface-id 例： Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。
ステップ 4	no switchport 例： Device(config-if)# no switchport	レイヤ 2 コンフィギュレーション モードからインターフェイスを削除します（物理インターフェイスの場合）。
ステップ 5	ip vrf forwarding vrf-name 例： Device(config-if)# ip vrf forwarding vpn2	インターフェイス上で VRF を設定します。
ステップ 6	ip address ip-address 例： Device(config-if)# ip address 10.1.5.1	インターフェイスの IP アドレスを入力します。
ステップ 7	ip verify unicast reverse-path 例： Device(config-if)# ip verify unicast reverse-path	インターフェイス上で uRPF を有効にします。
ステップ 8	end 例：	特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device (config-if) #end	

VRF 認識 RADIUS の設定

VRF 認識 RADIUS を設定するには、まず RADIUS サーバー上で AAA をイネーブルにする必要があります。『*Per VRF AAA Feature Guide*』で説明されているとおり、スイッチで **ip vrf forwarding vrf-name** サーバーグループ コンフィギュレーション コマンドと **ip radius source-interface** グローバル コンフィギュレーション コマンドがサポートされます。

syslog 用 VRF 認識サービスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device>enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device#configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	logging on 例 : Device (config) #logging on	ストレージルータ イベント メッセージのロギングを、イネーブルまたは一時的にディセーブルにします。
ステップ 4	logging host ip-address vrf vrf-name 例 : Device (config) #logging host 10.10.1.0 vrf vpn1	ロギング メッセージが送信される Syslog サーバーのホストアドレスを指定します。
ステップ 5	logging buffered logging buffered size debugging 例 : Device (config) #logging buffered critical 6000 debugging	メッセージを内部バッファにロギングします。
ステップ 6	logging trap debugging 例 :	Syslog サーバーに送信されるロギングメッセージを制限します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config)# logging trap debugging	
ステップ 7	logging facility facility 例 : Device(config)# logging facility user	ロギングファシリティにシステムロギングメッセージを送信します。
ステップ 8	end 例 : Device(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

traceroute 用 VRF 認識サービスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	traceroute vrf vrf-name ipaddress 例 : Device(config)# traceroute vrf vpn2 10.10.1.1	宛先アドレスを取得する VPN VRF の名前を指定します。

FTP および TFTP 用 VRF 認識サービスの設定

FTP および TFTP を VRF 認識とするには、いくつかの FTP/TFTP CLI を設定する必要があります。たとえば、インターフェイスに付加される VRF テーブルを使用する場合、E1/0 であれば、**ip tftp source-interface E1/0** コマンドまたは **ip ftp source-interface E1/0** コマンドを設定して、特定のルーティングテーブルを使用するように TFTP または FTP サーバーに通知する必要があります。この例では、VRF テーブルが宛先 IP アドレスを検索するのに使用されます。これらの変更には下位互換性があり、既存の動作には影響を及ぼしません。つまり、VRF がそのインターフェイスに設定されていない場合でも、送信元インターフェイス CLI を使用して、特定のインターフェイスにパケットを送信できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ip ftp source-interface interface-type interface-number 例： Device(config)# ip ftp source-interface gigabitethernet 1/0/2	FTP 接続の発信元 IP アドレスを指定します。
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	ip tftp source-interface interface-type interface-number 例： Device(config)# ip tftp source-interface gigabitethernet 1/0/2	TFTP 接続用の送信元 IP アドレスを指定します。
ステップ 7	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

ARP 用 VRF 認識サービスのモニタリング

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show ip arp vrf vrf-name 例： Device# show ip arp vrf vpn1	指定された VRF 内の ARP テーブルを表示します。

ping 用 VRF 認識サービスのモニタリング

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ping vrf vrf-name ip-host 例： Device# ping vrf vpn1 ip-host	指定された VRF 内の ARP テーブルを表示します。

Multi-VRF CE のモニタリング

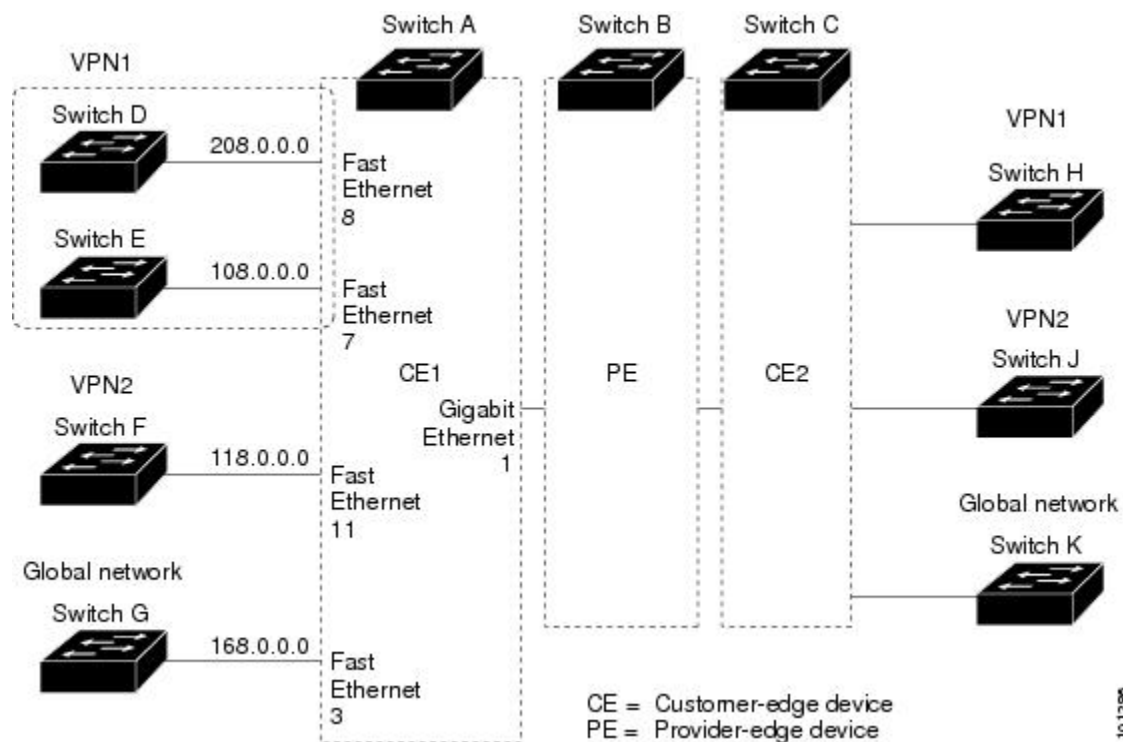
表 2: Multi-VRF CE 情報を表示するコマンド

コマンド	目的
show ip protocols vrf vrf-name	VRF に対応付けられたルーティング情報を表示します。
show ip route vrf vrf-name [connected] [protocol [as-number]] [list] [mobile] [odr] [profile] [static] [summary] [supernets-only]	VRF に対応付けられた IP ルーティング情報を表示します。
show ip vrf [brief detail interfaces] [vrf-name]	定義された VRF インスタンスを示します。

Multi-VRF CE の設定例

VPN1、VPN2、およびグローバルネットワークで使用されるプロトコルは OSPF です。図のあとに続く出力は、スイッチを CE スイッチ A として設定する例、およびカスタマー スイッチ D と F の VRF 設定を示しています。CE スイッチ C とその他のカスタマー スイッチを設定するコマンドは含まれていませんが、内容は同様です。

図 2: Multi-VRF CE の設定例の確立



スイッチ A では、ルーティングをイネーブルにして VRF を設定します。

```
Device#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#ip routing
Device(config)#ip vrf v11
Device(config-vrf)#rd 800:1
Device(config-vrf)#route-target export 800:1
Device(config-vrf)#route-target import 800:1
Device(config-vrf)#exit
Device(config)#ip vrf v12
Device(config-vrf)#rd 800:2
Device(config-vrf)#route-target export 800:2
Device(config-vrf)#route-target import 800:2
Device(config-vrf)#exit
```

スイッチ A のループバックおよび物理インターフェイスを設定します。ギガビットイーサネットポート 1 は PE へのトランク接続です。ギガビットイーサネットポート 8 と 11 は VPN に接続されます。

```
Device(config)#interface loopback1
Device(config-if)#ip vrf forwarding v11
Device(config-if)#ip address 8.8.1.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#interface loopback2
Device(config-if)#ip vrf forwarding v12
Device(config-if)#ip address 8.8.2.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
```

```
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/5
Device(config-if)#switchport trunk encapsulation dot1q
Device(config-if)#switchport mode trunk
Device(config-if)#no ip address
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/8
Device(config-if)#switchport access vlan 208
Device(config-if)#no ip address
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/11
Device(config-if)#switchport trunk encapsulation dot1q
Device(config-if)#switchport mode trunk
Device(config-if)#no ip address
Device(config-if)#exit
```

スイッチ A で使用する VLAN を設定します。VLAN 10 は、CE と PE 間の VRF 11 によって使用されます。VLAN 20 は、CE と PE 間の VRF 12 によって使用されます。VLAN 118 と 208 は、それぞれスイッチ F とスイッチ D を含む VPN に使用されます。

```
Device(config)#interface vlan10
Device(config-if)#ip vrf forwarding v11
Device(config-if)#ip address 38.0.0.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface vlan20
Device(config-if)#ip vrf forwarding v12
Device(config-if)#ip address 83.0.0.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface vlan118
Device(config-if)#ip vrf forwarding v12
Device(config-if)#ip address 118.0.0.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface vlan208
Device(config-if)#ip vrf forwarding v11
Device(config-if)#ip address 208.0.0.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
```

VPN1 と VPN2 で OSPF ルーティングを設定します。

スイッチ D は VPN 1 に属します。次のコマンドを使用して、スイッチ A への接続を設定します。

```
Device#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#ip routing
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)#no switchport
Device(config-if)#ip address 208.0.0.20 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#router ospf 101
Device(config-router)#network 208.0.0.0 0.0.0.255 area 0
Device(config-router)#end
```

スイッチ F は VPN 2 に属します。次のコマンドを使用して、スイッチ A への接続を設定します。

```
Device#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#ip routing
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)#switchport trunk encapsulation dot1q
```

```

Device(config-if)#switchport mode trunk
Device(config-if)#no ip address
Device(config-if)#exit

Device(config)#interface vlan118
Device(config-if)#ip address 118.0.0.11 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#router ospf 101
Device(config-router)#network 118.0.0.0 0.0.0.255 area 0
Device(config-router)#end

```

このコマンドをスイッチ B (PE ルータ) で使用すると、CE デバイス、スイッチ A に対する接続だけが設定されます。

```

Device#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#ip vrf v1
Device(config-vrf)#rd 100:1
Device(config-vrf)#route-target export 100:1
Device(config-vrf)#route-target import 100:1
Device(config-vrf)#exit

Device(config)#ip vrf v2
Device(config-vrf)#rd 100:2
Device(config-vrf)#route-target export 100:2
Device(config-vrf)#route-target import 100:2
Device(config-vrf)#exit
Device(config)#ip cef
Device(config)#interface Loopback1
Device(config-if)#ip vrf forwarding v1
Device(config-if)#ip address 3.3.1.3 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#interface Loopback2
Device(config-if)#ip vrf forwarding v2
Device(config-if)#ip address 3.3.2.3 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#interface gigabitethernet1/1/0.10
Device(config-if)#encapsulation dot1q 10
Device(config-if)#ip vrf forwarding v1
Device(config-if)#ip address 38.0.0.3 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#interface gigabitethernet1/1/0.20
Device(config-if)#encapsulation dot1q 20
Device(config-if)#ip vrf forwarding v2
Device(config-if)#ip address 83.0.0.3 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#router bgp 100
Device(config-router)#address-family ipv4 vrf v2
Device(config-router-af)#neighbor 83.0.0.8 remote-as 800
Device(config-router-af)#neighbor 83.0.0.8 activate
Device(config-router-af)#network 3.3.2.0 mask 255.255.255.0
Device(config-router-af)#exit
Device(config-router)#address-family ipv4 vrf v1
Device(config-router-af)#neighbor 38.0.0.8 remote-as 800
Device(config-router-af)#neighbor 38.0.0.8 activate
Device(config-router-af)#network 3.3.1.0 mask 255.255.255.0
Device(config-router-af)#end

```

Multi-VRF CE の機能履歴

次の表に、このモジュールで説明する機能のリリースおよび関連情報を示します。

これらの機能は、特に明記されていない限り、導入されたリリース以降のすべてのリリースで使用できます。

リリース	機能	機能情報
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	マルチ VRF CE	スイッチは、カスタマー エッジ (CE) デバイスの複数の VRF (マルチ VRF) インスタンスをサポートしています (マルチ VRF CE)。

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォームおよびソフトウェアイメージのサポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<https://cfng.cisco.com/> にアクセスします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。